

# 旭川医科大学 卒業臨床研修センター通信



平成24年7月号

発行:卒業臨床研修センター

## センターの活動予定等

- ◆8月9日 マッチング登録締切
- ◆8月下旬 センター通信 7月号発行



## 研修医 体験談 第7回 小林 進 先生

卒業臨床研修センター通信をお読みの皆様、こんにちは。研修医2年目の小林進といいます。臨床研修1年目を振り返って、またこれから臨床研修を迎える学生の皆様に伝えたいことは沢山あるのですが、グッと一言にまとめると『モチベーションを高く保てる環境で研修生活を送ることが一番大事』です。

初めに断っておきますが、私は大学病院での臨床研修を必要以上に始める気もありませんし、市中病院での研修が大学病院に劣るとも思っていません。それぞれにメリットデメリットがあり、人によって合う合わないがあると思います。私の先輩に研修先を相談した時、「どこどこの病院で研修したから劇的にできる研修医になったって人はいない。できる人にはそれなりの理由があった。」と言ってくれました。まさにその通りだなと思いました。

私は市中病院で研修は行っていないので何とも言えませんが、市中病院のいい所のイメージとしては『症例数が多い』・『手技を沢山やらせてもらえる』・『臨床重視であり、実践的な気がする』・『common diseaseが診れる』・『給料がいい(笑)』なんかがいっぱい浮かびます。一方研修をしてみても大学病院のいい所は『指導が丁寧』・『基本をしっかりと学べる』・『academicな知識を獲得できる』といったところでしょうか。

それぞれのデメリットとして最も大きいと思うのは大学では『知識は整理できても手技・経験の絶対量が不足する為頭でっかちになってしまう可能性がある。』、市中病院では『臨床にまみれてその病院での業務をこなせるようになって、どこにいても通用するgold standardが身に着かない可能性がある』といったところでしょうか。

それぞれの環境の中でモチベーションを高く持ち、目標を持って一つの症例からより多くのことを学ぶ事。それができればどちらで研修をしても充実した2年間になると思います。

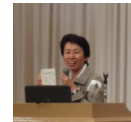
私は学生時代ポリクリで大学病院を回った時、正直いい印象は抱きませんでした。ですが今その時とは随分違ったモチベーションで研修に臨んでいます。具体的に話すと4枚分程スペースを頂かなければならないので、少しでも大学病院での研修をしてもいいかなという気持ちがあるならば、最初から毛嫌いせず、一度卒業臨床研修センターのドアを叩いてみてください。2・3年先輩が、大学病院での研修のいい所、悪い所を近い目線で話してくれるはず。少しでも多くの方と一緒に働ける日を楽しみにしています。



## 【報告】

### 旭川医科大学病院医師臨床研修プログラム説明会・情報交換会を開催しました。

7月4日(水) 19:00から、旭川グランドホテルで、本学医学科同窓会と合同で



企画した旭川医科大学病院医師臨床研修プログラム説明会・情報交換会を開催しました。この会は平成22年度から行われており、今年で3回目となります。例年大勢の学生や医師に参加していただき皆さんお忙しい中、総勢多数お集まりいただきました。立食形式の情報交換会では、飲物を片手に先生方と和気藹々と歓談する学生さんの姿や、真剣な眼差しで先生の話に耳を傾けている学生さんの姿が見受けられました。今後もこのような情報交換の場を設けていきたいと考えておりますので、今回ご参加できなかった方も次回は是非ご参加ください。



## 母校の紹介 第7回 放射線医学講座

放射線科とはどのような仕事をするところなのか知っていますか？大きく、3つに分けられます。1つ目は、画像診断部門です。CTやMRIなどで得られた画像から考え得る病態をピックアップし、治療に役立ててもらうのが仕事です。関心領域のみではなく、体の隅々まで目を行き届けることのできる唯一の診療科であると自負しています。また、CT・MRI機器が日進月歩で発展する中、その画像解釈は自ずと難しくなり、私たち放射線科医の役目は日に日に大きくなっています。また、画像診断部門ではIVR(interventional radiology)にも携わっています。主に、カテーテルを使用した血管内からの治療を行っています。外傷や術後出血などの救急疾患に対して24時間体制で対応する一方で、頭頸部や肝臓などの悪性腫瘍に対する動注療法なども施行しています。更には、CT画像をガイドにして、膿瘍ドレナージや生検なども行っています。2つ目は、放射線治療です。現代医学では欠かすことのできない部門です。現代医学の最大の敵である癌が、まさに放射線治療の主戦場であり、手術・化学療法のみでは治癒しえない症例でも、放射線治療を加えることで、時には放射線治療単独で完治することもあります。3つ目は核医学部門です。放射性同位元素を利用して、様々な臓器の形態・機能評価や、特にPET-CTで、悪性腫瘍の発見・病勢評価を行っています。これ無くして現代医学は成り立ちません。また、放射性同位元素を用いた甲状腺疾患の治療にも精力的に取り組んでいます。



専門医になるには卒業臨床研修期間も含め7年かかります。その中で、当科の研修は、広く深く学ぶことをモットーとしており、様々な場面で貢献できる力を身に付けることができます。そして、様々な科と密接に連携し合い一丸となって病気に立ち向かっていく、それが放射線科の目指す所です。興味のあるかたは是非放射線科にお越し下さい。

### 【お問い合わせ先】

旭川医科大学 卒業臨床研修センター  
〒078-8510 北海道旭川市緑が丘東2条1丁目1-1 TEL 0166-68-2198 FAX 0166-68-2199  
E-mail: sotsugo@jim.u-asahikawa.ac.jp  
<http://www.jimu.asahikawa-med.ac.jp/shomu/sotsugo/> ※ホームページもご覧ください